

令和元年度 学校自己評価一覧シート

教育目標	謙虚にして、自信の持てる、心身ともに健全な社会人の育成を期する	教育目標具現化のための本年度の方針	①地域に愛される生徒を育てる組織的生徒指導の徹底 ②基礎学力の定着と学力向上を目指す、教科指導・学習指導の充実 ③進路希望の実現と進路実績の向上 ④地域に根ざした特色ある教育活動の推進 ⑤心身の健康
------	---------------------------------	-------------------	---

	分野・担当	本校の求める姿	本年度の重点目標	評価活動項目	目標達成のための具体的方策	評価規準・数値目標	中間評価	達成度
1	式典・務務集会	(1) 式典を通じた厳粛な場における行動・姿勢の習得 (2) 愛校心および集団帰属意識の高揚	式典を厳粛に行いながら、儀式礼法を習得し、生徒に愛校心と集団帰属意識をより持たせるよう努める。	厳粛な式典の運営	各式典および集会における集合状況・身だしなみの他、T P O に応じた行動をとれるよう生徒に指導する。	集会時における生徒の集合状況、身だしなみ等、適切に指導がなされているか。	集会における集合や身だしなみは生徒の努力もあり、よい状況である。	A
					生徒が校歌・式歌等をしっかり歌えるように指導するとともに、集会や式典に対し、積極的に参加する意識の高揚を図る。	校歌、式歌等をしっかり歌えるか。表彰式、卒業式等の式典が適切に行われ、生徒自身が愛校心を持ちながら積極的に参画できたか。	校歌は卒業式以外はなかなか歌えない状況である。また、表彰式についても呼名に対する返事の指導が徹底できていない。	B
2	PTA活動総務外務部門との連携	(1) P T A・同窓会と協力合う、三位一体の積極的な学校運営 (2) 地域に貢献し、愛され、地域に開かれた学校づくり (3) 地域関係諸機関との連携強化を図り、地域に愛され、誇りとなる学校となるよう努める。 (4) 地域防災の意識高揚を図る。	(1) P T A活動の充実を図るとともに、保護者の学校行事への参加率向上に繋がるよう、さまざまな行事を通じて、保護者相互の連携を強める。 (2) 同窓会・地元地域との連携強化を図り、地域に愛され、誇りとなる学校となるよう努める。 (3) 地域関係諸機関との連携を強化し、地域防災の意識高揚を図る。	保護者のP T A活動への積極的な参加の促進 P T A・同窓会・町内自治会等、各組織との積極的な連携 地域関係諸機関等と連携した防災行事への積極的参加と防災学習の充実 創立50周年記念行事の準備	P T A行事における保護者の一層の参加を呼びかけるとともに、保護者がP T A活動に参加したくなるような方策を講じ、活性化を図る。	P T A行事における保護者の参加状況は良くなかったか。また、新規事業により、魅力あるP T A活動を行うことができたか。	今年度初めて文化祭による模擬店を開催でき、またPTA役員・理事が積極的に参加していただけた。	A
					P T Aや同窓会との強固な連携を図りながら、地元地域や中学校等への発信を積極的かつ適時に行う。本校のさまざまな活動内容を、より魅力のあるものとして外部に発信できるよう努力する。	P T Aや同窓会および地域との連携が向上したか。	PTA及び同窓会との新規連携事業（文化祭出店）を行うことができた。	A
					生徒自身が地域の防災活動に積極的に参加する機会を確保するとともに、校内における防災ポスターの掲示や有事に備えた防災訓練を実施する。	生徒が地域の防災活動に積極的に参加しながら、有事の際に、地域に貢献できる能力を高めることができたか。 校内の防災ポスターを掲示し、より現実的な防災訓練を実施することができたか。	校内の防災ポスターを9月より掲示することができた。今後も生徒及び教員に対し、有事の際への危機管理の啓発に努める。	A
					P T Aや同窓会および地域と連携を図りながら、他校の情報収集に努める。	50周年記念行事への概要を提案することができたか。	評価できず	-
3	学習指導	(1) 授業規律の徹底 (2) 予習復習の習慣化 (3) 公開授業・授業評価・研究授業研修による授業の質の向上 (4) 生徒実態に即した授業・評価方法の工夫 (5) 主権者教育の充実 (6) 図書館機能を充実し、利用率と貸し出し数を向上させ、読書活動を推進する (7) 校務支援システムの円滑な活用	(1) 早期に学び直しを完了させ、基礎学力を確実に定着させるよう工夫する (2) 授業規律を徹底し緊張の中にも知的好奇心を刺激し充実した授業を実施する (3) 少人数・習熟度別の円滑実施により、思考力・判断力・表現力を鍛える (4) 科目選択指導の工夫と改善を行うとともに、系列の特色を生かした専門性を高める指導内容、指導方法を工夫する。 (5) 主権者教育の充実 (6) 図書館機能を充実し、利用率と貸し出し数を向上させ、読書活動を推進する (7) 校務支援システムの円滑な活用	学習習慣の確立と授業改善 授業規律の確立 教育課程と科目選択の改善 図書館機能の充実	予習・復習の徹底と、目標学習時間の明示（学年+2時間） 「定期的な課題」や「小テスト」を通じて、学習習慣を身につけさせ、学力を向上させる。 主体的で対話的で深い学びの実現に向け、「授業公開」「授業アンケート」を柱とし、問い合わせに関する研究やアクティブラーニングの活用を通して、授業改善をする。 基礎力充実のための「学年コンテスト」のあり方を検討する。	生徒の授業外学習を調べ、その時間が増加したか。 問い合わせに関する研究やアクティブラーニングの活用ができたか。 授業改善ができたか、授業アンケートや授業公開の参観者数などにより判断。 学年コンテストの実施拡大 学校全体の企画として実施する方向性を持たせる。	授業外学習時間については、春の時点では昨年より学習時間が減少している。アクティブラーニングについては授業懇談会で一度活用してもうることで、単元によっては活用をしてもうっている。授業公開週間の参加者は昨年度の3倍近くに増加しており、非常に良い傾向である。	B
					守るべき授業規律を徹底する。 「授業指導連絡票」や「授業懇談会」の活用。	守るべき授業規律がほぼ守られているか、授業指導連絡票の提出状況や内容により判断。 授業への参加態度は良好か。	授業指導連絡票の枚数は、昨年より減少したものので、過去5年間の中では昨年に次いで多い枚数である。不注意によるものが多いので、意識を徹底させることで改善していくたい。	B
					ライフクリエーション系列を改編し、新しい系列を発足させる下準備をする。 系列に関する組織作りを行い、カリキュラム・マネジメント確立へ向けた準備を行う。 令和4年度入学生の教育課程編成	2年後に、核となるものが明確になるような系列の立ち上げができるようにできたか。 系列に関する組織作りを行い、カリキュラム・マネジメント確立へ向けた土台作りができたか。 令和4年度入学生の教育課程を編成できたか。	令和4年度入学生的教育課程編成に向けて、系列会議を設置し系列については、カリキュラム・マネジメント確立へ向けた土台作りを行うことができた。系列目標について議論をしている所である。	B
					蔵書整備で必要な資料を揃え、提供し、授業や総合で活用される場を作る。 図書管理システムNoahの運用	適切な図書の選定、購入、廃棄ができたか。 利用冊数及び利用人数は増加したか。 図書館外での図書の活用が出来たか。 Noahの運用ができたか。	廃棄はまだ行っていないがその他は適切に行っている。貸出冊数は前年比113%(100冊増)で推移しており、授業での活用も微増。図書館外への取組については保健室・職員室に本を設置。今後は図書委員を活用し積極的なH Rへの働きかけが必要と考える。	B

分野・担当	本校の求める姿	本年度の重点目標	評価活動項目	目標達成のための具体的方策	評価規準・数値目標	中間評価	達成度
		(8)カリキュラム・マネジメントの確立	校務支援システムの円滑運用	自分掌で担当者を複数育成とともに、他分掌へ業務の移管を行う。 マニュアルを充実させるとともに、通知票・指導要録・調査書等、多様に運用し、チェック機能の再考を図る。	システム管理に携われる人材を増やせたか。 他分掌への業務の移管を行うことができたか。 より正確で、適正な資料作成とマニュアル作成ができたか。	今年度は新たに担当者が増え、システム管理に携わる人材は増えたと言える。しかし、もう一つの課題である他分掌への移管は滞ったままである。様々な部分で他分掌がメソフィアを使った業務を自分掌内で完結させられるような、マニュアルや伝える機会が必要である。	B

	分野・担当	本校の求める姿	本年度の重点目標	評価活動項目	目標達成のための具体的方策	評価規準・数値目標	中間評価	達成度
4 ～進路指導～	(1) 計画的・継続的進路指導 (2) 保護者への進路情報の充実 (3) 大学企業研究・見学の充実 (4) 組織的進路指導法の研究 (5) 推薦合格生徒の学力保証	(1) 生徒個々の適性を見据え、3年間を見通した指導体制の確立 (2) 資格取得・補習・模試・センター試験等へ意欲的に取り組めることによる粘り強く挑戦する生徒の育成 (3) 高い進路目標を掲げる生徒のサポート (4) 保護者へ提供する進路情報の充実と教員研修の効率化	3年間を見通した指導体制の確立	高大接続改革も見据え、進路研修会の内容をより効果的なものにして、本校の進路指導についての共通理解をはかる	進路指導についての共通理解、経験の継承ができたか。昨年より出席者が増加したか。	限られた時間内で第3学年の進路指導について共通理解が得られたと思われる。参加者数は前年並みであった。	B	
			補習等での学びの拡大と充実	補習・模擬試験等について情報を周知、参加の呼びかけを強化して、参加に結びつける。	積極的に取り組むことができたか。昨年より参加者が増加したか。	参加者はやや増加した。よく取り組めている。	B	
			保護者へ提供する進路情報の充実	P T A 総会後に進路講演会を実施するとともに、保護者会では配布資料の内容を充実させ、必要な情報を発信する	十分な情報提供ができたかを P T A 進路委員会での振り返りの状況で判断する。昨年度より情報量を増やすことができたか。	進路講演会を適切に実施できた。保護者会配布資料は担任の負担も考えて必要性の高いものに絞った。	B	
5 ～生徒指導～	(1) 身だしなみ指導、遅刻・欠席指導を学年中心に指導しきる体制の確立 (2) 交通安全指導の徹底、非行防止、問題行動（いじめ）の根絶	(1) 将来の社会人、職業人としての規範意識やマナーを徹底指導し、基本的生活習慣が確立された高い品位、品格と道徳心を持つ生徒の育成 (2) いじめ防止基本方針に則り、いじめのない安心・安全な学校づくり (3) スマートフォン、携帯電話等の使用方法について職員の共通理解のもと指導 (4) 交通安全指導の徹底	紛失・盗難の防止	ロッカーの施錠指導の徹底により、貴重品の自己管理を徹底させるとともに、物を大切にすることや整理整頓を心掛けさせる。また、不必要的物を学校に持ち込まない。	ロッカーの施錠の状況の把握が年間を通じてできたか。盗難・紛失届数が昨年より減少したか。	年度当初はロッカーの中から物の紛失が起きていたが、次第に紛失事案が減少してきている。ロッカーに鍵がかかっている状態を保てている。	B	
			いじめのない安心・安全な学校づくり	生徒観察や心の健康アンケートなどを通し、生徒の心理変化や環境変化に気付き、早期発見に務め学年・学校全体で即時対応をする。	いじめの早期発見・早期対応ができたか。	S N S でのトラブルが増えているが、担任の注意や学年指導部が注意をすることで収まっている。個人情報を含んだ投稿には厳しく対応できた。	B	
			身だしなみ指導の充実	定期的な点検、登校指導、巡回指導により、制服の正しい着用・清潔な頭髪の維持・装飾品の不着用を徹底させる。	整った身だしなみで学校生活が送れているか。	化粧カードの数が大幅に増加した。化粧をしてくる生徒が増加しているとともに、注意してくださる先生も増加した。	B	
			時間を守る意識の高揚	遅刻カードを導入し、さらに遅刻指導の徹底を図る。授業や教育活動の場面で時間が守れるよう指導する。	年間の遅刻指指数が昨年度より減少したか。	遅刻数はほぼ横ばい。2学期に入り、遅刻数が増加している。	B	
			安全意識やマナー・モラルの向上	校外での啓発活動を充実させ、更なる意識の向上を図る。歩きスマホや自転車運転中のイヤホンの禁止など、ルールの徹底を声かけを中心に指導する。	交通事故件数が減ったか。	事故報告件数が大幅に増加した。また、苦情電話も多くいただいた。	C	
6 ～生生徒会活動～	(1) 部活動の活性化 (2) 生徒会活動、学校行事の充実	(1) 生徒会活動、学校行事、部活動への意欲を高め学業との両立を図る。 (2) 生徒委員会活動を充実し、生徒が自ら意欲的に学校づくりに参加する機会を作る。 (3) 地域交流やボランティア活動の推進により自己有用感を醸成する。	部活動の活性化	メリハリのある部活動をめざし、学習と部活動の両立できる環境を整える。 単に部活動への参加人数を増やすだけでなく、3年間継続していくる環境整備を検討する。 生徒会新聞等を通じ、試合・大会等の予告・結果を広報する。	限られた活動時間や活動日数の中で効率よく活動することができたか。 生徒の活動状況を把握し、活性化に繋げることができたか。 試合・大会の結果を広報できたか。	今年度より「部活動指導ガイドライン」に基づいたルールで実施しているが、どの部も概ね限られた時間や日数の中で活動することができている。また、3年間継続していくる環境整備に向けて、「部活動活動状況調査」を実施し、活動状況の把握に努めている。	B	
			生徒会活動の活性化	生徒会執行部との連携をしっかりと図り、南陽祭をはじめとする学校行事を、生徒が主体性を持って企画・運営できるように指導・支援する。	生徒会執行部と顧問の間に連絡・報告・相談がしっかりとなされていたか。 生徒会執行部の生徒だけでなく、それ以外の生徒も主体性を持って活動することができたか。 昨年度の反省をもとにより良い活動に改善することができたか。	南陽祭に関しては、生徒会執行部だけでなく、それ以外の生徒も積極的に行事に参加する姿が見られた。	B	
			ボランティア活動の充実	生徒会部として実施可能なボランティア活動を検討し、年間を通して計画的に実施していく。	ボランティア活動の回数が増加したか。 ボランティア活動への参加人数が増加したか。	生徒会執行部とJRC部が合同で「田んぼアート」の田植え、稲観察会に参加した。	B	
7 ～学校保健～	(1) 心身の健全育成 (2) 清掃指導の充実による校内美化の推進	(1) 大掃除・清掃器具 (2) 教員間のS C・S S Wとの連携 (3) 欠席しがちな生徒への対応	学期末及び行事前などに通常清掃では行き届かない箇所の清掃及び清掃道具の完備	教員によるチェックシートを活用し、共通認識のもと、学校全体で大掃除に取り組む。委員会活動の一環として、生徒が定期的に道具の点検や修理を行い、清掃のための準備をする。	チェックシートを活用し大掃除に取り組めたか。 委員会活動で掃除道具の点検が定期的に行えたか。	大掃除に関しては、もう少し職員指導のもとできるのではと感じた。掃除道具の点検は、行えた。	B	
			教員間のS C・S S Wとの連携	各学年相談担当を置き、情報交換が密にできるようにする。	職員間とS C・S S W等の連携ができているか。	相談担当の細かな声かけにより連携がとれた。	A	
			担任、学年主任、養護教諭、相談係等を中心とした組織的な対応	マニュアルに従っての追求をしていくとともに改善点の見直しをする。	関係職員との連携はできているか。	連携はとれていた。	A	
8 ～総合進学～	(1) 総合学科としてのあり方研究 (2) キャリア教育の充実 (3) 地域に貢献し、愛され、地域に開かれた学校づくり	(1) 生徒が主体的に活動できる教育活動が実施できるよう提案を行う。 (2) 「キャリア探求Ⅰ～Ⅲ」の効果的な指導を探り、より本校生徒に適した内容を検討する。 (3) 地域に根ざした教育活動を推進し、理解を求める。また、そのための広報活動を積極的に行う。	総合学科発表会の充実	年度当初より計画を立て、全体で運営ができるようにし、行事の充実をはかる。	計画的に総合学科発表会の準備をすることができたか。	各教科から素案を出してもらい、系列会議で検討する予定である	B	
			「キャリア探求Ⅰ～Ⅲ」の効果的な指導を探り、より本校生徒に適した内容を検討する。	絶えなき改善を実施し、担任が円滑に授業ができるように、指導計画を提案する。	「キャリア探求Ⅰ～Ⅲ」の運営について、学年から評価を得ることができたか。	予定どおり運営できている	B	
			連携教育の強化とその広報	企業や団体との連携教育を充実させるとともに、その広報を実施し、本校への地域からの評価を高める。	連携教育に生徒を参加させることができたか。	SDGsに関わる連携教育を学年全体で実施した	A	
～地域～	地域に貢献し、愛され、地域の誇り	(1) 地球規模で考え地球視点で行動する地域連携事業の確立	国際理解教育の推進	国際理解検討委員会の計画をもとに、国際理解を促す内容を学校行事のテーマに盛り込み、国際理解教育の一層の充実を図る。	国際理解を促す内容を学校行事等のテーマに盛り込み、計画から発信まで年間を通して、国際理解教育を充実させ、生徒の課題解決力を向上させることができたか。	11月に実施予定。	-	

	分野・担当	本校の求める姿	本年度の重点目標	評価活動項目	目標達成のための具体的方策	評価規準・数値目標	中間評価	達成度
9	頭 等 連 携	となる学校（文化の殿堂）	(2) 地域に愛され、信頼される学校づくりの方針と情報の発信活動の充実	地域連携の推進	授業や部活動で地域や企業との連携事業を展開しながら、生徒の成長を促す。またその様子を地域に発信する。	授業や部活動で行う地域や企業との連携事業で生徒が成長したか。また、地域に発信することにより、地域の信頼を高めることができたか。	多くの活躍する機会を地域の方がたより与えていただき、生徒は大きく成長している。	A
10	多 解 忙 消 化	業務改善を進め、在校時間を適正化する	(1) 長時間労働の是正に向けた在校時間管理の適正化 (2) 業務改善に向けた取組	働き方の改善	施錠時間を20時とし、定時退校日の設定日を増やす。部活動ガイドラインに沿った形で働き方改革を進める。	在校時間等の状況記録で、時間外勤務が80時間超の人数が減少したか。	若干名80時間超の先生もみえるが、今年度は先生方の意識にも変化が見られここ数年の中では最も減少した数字である。	A

愛知県立 南陽 高等学校

最終評価	達成度	次年度への課題 次年度への行動目標
集会時の集合状況、身だしなみは良い状況である。ただ、講話時にきちんと前を向き、聴く姿勢をとれていない生徒もいたのが残念である。	B	継続して、集会時のマナーの徹底をしていくとともに、話を聴く姿勢について、しっかりと指導していく。
校歌は大きな声で歌えなかった。式典前にクラスにおいて担任指導を入れてもらう必要性を感じる。表彰においても呼名の返事、礼、代表生徒以外の生徒の指導など徹底できなかった。	B	校歌、表彰の在り方について、教員の共通理解を図れるよう、継続して依頼していく。また、表彰では、受賞生徒の顔が見られるよう、工夫していきたい。
今年度は、文化祭の出店を開催したが、意欲的に参加していただけるPTAが多く、参加率は向上した。今後も継続して行うとともに、PTA主導でできるような働きかけが必要だと感じる。	A	継続してPTA活動の参加率を向上できるよう、次年度はPTA役員会・理事会で情報交換会を設けていきたい。
PTA、同窓会ともに模擬店の出店ができ、交流も図れたことから、今年度の目標は達成できた。また、同窓会の評議員の新たな活躍の場とすることができる。	A	次年度も継続して実施していきたい。出展内容については、清掃等でごみの放置の課題も出てきたことから、保健部の連携を図りたい。
防災ポスターの掲示、抜き打ちの防災訓練の企画を行うことができた。また、防災マニュアルを確認する現職研修で、限られた時間の中ではあつたが職員の共通理解を図ることができた。	A	防災指導については、教員・生徒とともに、常に有事に自分の命を守る行動ができる意識付けを図っていただきたい。また、防災訓練もさらに現実味のあるものにしていきたい。
各校の周年行事の情報収集に努めた。委員会については3月に実施予定である。	B	次年度周年行事企画運営の検討をしたい。
授業外学習時間については、例年と特に変わらなかった。アクティブラーニングについて、中間評価と変わらない状況である。授業アンケートについては、今年度から改善点の記入を導入することで、授業改善に繋げるアンケートとして位置づけることができた。学年コンテストについては、より効果が高まるような工夫が必要である。	B	授業外学習時間の確保と効果的な授業改善方法の模索。
10,11月は増加したが、12月は減少した。携帯電話の切り忘れ件数は過去5年ほぼ変化なく、遅刻の回数が昨年に引き続き多くなっている。同一生徒が複数回指導されるケースが多く、学校全体として授業規律はほぼ守られている。	B	遅刻の回数が増えている状況について、確認し対策を講じる。
現状、令和4年度入学生の教育課程については系列の目標を再検討している所で終わっているため、引き続き令和4年度入学生的教育課程を検討していきたい。他は中間評価と同様である。	B	令和4年度入学生的教育課程編成と系列に関する組織の定着。 カリキュラム・マネジメントの確立。
今年度の廃棄は行うことができなかった。貸出冊数は前年比106%増（1190冊）で推移。中間評価以降伸びなかった。図書室外への設置や各分室・教科への回覧により一部への周知は行えたがHRへの積極的な読書活動促進は行えなかつた。Noahにより貸出・返却の作業やデータの統計がスムーズに行えるようになったため利用促進に繋がっている。	B	適切な廃棄を行い棚を有効に活用する。引き続き南陽図書館と連携しつつ、本校の調べ学習資料も選定・購入を行いより授業や委員会での利用促進につなげる。HRへの読書活動の推進を行う。Noahでの蔵書点検を行う。

最終評価	達成度	次年度への課題 次年度への行動目標
自分掌内での人材の育成はスムーズに行えており、予定通りである。セキュリティーを高めつつ一般の職員に使える機能を増やしている。しかし、他分掌用のメソフィア機能の充実がまだ完全とは言えず、他分掌とも連携をとりながら、どの機能を移管するかを決めていく必要がある。	B	メソフィアの機能について担任の先生や他の分掌の先生方に権限を更に付与する。 成績関係処理用の科目名について、運用方法を再検討する。

最終評価	達成度	次年度への課題 次年度への行動目標
第3学年の進路指導の全体について伝えるために研修内容が複雑で長時間にわたりがちであるが、許容できる程度にまとめることができた。	B	伝え方をより洗練させて、スムーズに理解を得られる工夫をする。
補習参加数はまことに良好であった。	B	勤務時間内に実施していただけるよう配慮しながら実施していく。
進路講演会の他、保護者会時の進学資料配布会を実施し、相当数の資料を配布できた。	B	引き続き進路講演会・進学資料配布会を実施する。
1年間継続して施錠チェックをすることができたのは本当に良かった。鍵をロックせずにそこから紛失してしまうことも複数件あった。	B	引き続きチェックをおこなう。また、管理の意識や声掛けの頻度も多くしてもらう。
アンケートなどで把握ができる場合には迅速に担任と連携をとって対応ができた。また、アンケート以外でもいじめ・トラブルに関して担任の先生が報告をして下さることで、情報共有することができた。	B	SNSの書き込みからのトラブルが多いので、取り扱いから注意をしていく。
前年度同時期と比較してスクート・化粧ともに20%～30%増加した。指導部員以外の先生が指導してくださった状況も増えている。	B	声掛けをする教員を増やして、いつでも見られているという意識を持たせていきたい。
2学期でも増加したが、3学期に入り更に遅刻者が大幅に増加してしまった。また、遅刻指導に欠席をする生徒の指導が問題となっている。	B	年度当初のモチベーションが続かないことが問題である。きちんと登校できている生徒もケアをしたい。
事故件数は昨年度同時期と比較して増加した。また、事故をした後の対応が適切でない生徒が多くいた。	B	事故をしないための講話も必要だが、事故後の正確な対応の仕方もきちんと伝えたい。
4月から「部活動細則」を変更し、今までよりも活動時間や活動日数に制限がある形で実施してきたが、どの部も大きな混乱なく活動することができた。働き方改革の影響で部活動に制限が加えられる流れがあり、どのような形で部活動を活性化させていくかについては、ビジョンが描けていない状況である。	B	働き方改革の流れの中で木曜日が活動休止日になるなど部活動に制限が加えられるが、各部が限られた時間や日数の中で効率的・効果的な活動をしていくようにする。
前期後期ともに生徒会役員の立候補者が定員に満たない状況であったが、学校行事では、生徒は非常に積極的に活動した。南陽祭では、生徒のアイデアを吸い上げて新たな企画にチャレンジすることができた。ただ、もっと生徒主体でやり切る姿勢があるとよかったです。	B	教員ではなく、生徒が中心となって最後までやり切れるように指導・支援していく。 体育祭の熱中症対策にしっかり取り組み、事故のない運営を心掛ける。
生徒会執行部とJRC部が合同で「田んぼアート」の田植え、稻観察会に参加した。	B	生徒会部として実施可能なボランティア活動を検討し、年間を通して計画的に実施していく。
職員の指導の下、周知徹底ができていない。委員会活動を通じて、清掃道具に点検は、行えた。	B	教員指導の下、周知徹底。
予定どおり実施できた。	A	引き続き行なう予定。
予定どおり実施できた。	A	引き続き行なう予定。
系列会議で検討した後に実施したが、教科から負担が偏っているとの声があった。	B	より効果的かつ効率的な実施方法を探る。
予定どおり運営し、一定の評価を得ることができた。	B	生徒にとってより良い内容となるよう検討を重ねていく。
SDGsに関わる連携教育を学年全体で実施した	A	今年度の取り組みを引き継いだうえで、さらに良いものとする。
国際理解LT、ワークショップ、お茶会ともに例年より盛況のうちに終えることができた。	A	南陽高校の伝統にもなっている教育活動の1つである。さらに充実させてていきたい。

最終評価	達成度	次年度への課題 次年度への行動目標
各教科、各部活動などで地域などとの連携を数多く実施することができた。関係各所より高い評価を得ている。	A	さらに生徒の自己有用感を高められる活動にしていきたい。
時間外勤務など数字的には若干減少しているが、多忙感はまだまだある。	B	木曜日は部活動休止日にするなどさらに前に進めるための業務改善を実施したい。